

あなたを支えます・・・緩和ケア

現在、日本では男性の3人に1人、女性の2人に1人ががんにかかるといわれています。このようにがんは決して珍しい病気ではなくなっています。そしてこの陶生ニュースを手にとられた方ご自身ががんと闘っておられるかもしれませんし、大切なご家族ががんに罹患されつらい思いをなさっているのかもしれない。そのような方々をお支えするのが緩和ケアです。

【誤解していませんか?緩和ケアのこと】

以前に比べ緩和ケアという言葉は皆様の間に広まってきています。しかしまだ緩和ケアは治療法が無くなった患者さんや、終末期の患者さんが対象の医療と考える方が少なからずおみえのようです。これは誤解です。患者さんはがんと診断されたもっと早くの時点から様々なストレスにさらされます。これからどうなってしまうのだろうという不安や心配のあまり夜も眠れないなどの心の症状、痛い、むかむかする、だるいなどの体の症状、場合によっては仕事をお休みすることでの経済的な問題など様々な面でつらい思いをされる可能性があります。これらのことが時にはがん治療そのものの大きな障害となる場合もあります。緩和ケアはこのような広い範囲の問題に関して患者さんのサ

ポートをする医療です。治療中でもそれ以前の治療前の段階でも緩和ケアがお手伝いできることはあります。緩和ケアに時期が早いということはありません。少しでも心や体がつらさを感じた時が緩和ケアの必要な時なのです。

【誤解していませんか?麻薬のこと】

緩和ケアをご理解いただいた患者さんでも医療用麻薬に関して低抗感を訴えられることがあります。これはモルヒネのような医療用麻薬は必後の薬、または早くから使うと効かなくなる、がんが早く進むようになる、頭がおかしくなるなどの誤った知識が原因となっています。もちろん医療用麻薬も薬ですので副作用はあります。しかし医師が正しい理解のもとに使用すれば依存症になることはほとんどなく、ましてやがんが早く進むなどということは決してありません。かえって医療用麻薬を正しく使って痛みを和らげ、きちんと睡眠をとるなどストレスの少ない生活を送ることの方がはるかに大切です。

【緩和ケアはチーム医療です】

緩和ケアは色々な方面から行う必要があり、一人の医者だけではどれだけ熱意を持っていても困難です。このために当院には緩和ケアチームがあり、サポートの要請があった場合にチームのメンバーが力を合わせ全力で主治医とともに

に皆さんを支えます。緩和ケアチームは緩和ケア専門の医師、看護師、薬剤師の他にソーシャルワーカー(医療社会福祉士)、栄養士、理学療法士、作業療法士、心理療法士、歯科衛生士などの様々な職種のスタッフから成っています。それぞれのスタッフが必要に応じて専門的能力を駆使しサポートします。

【緩和ケアチームの働き】

緩和ケアチームには3つの役割があります。まず患者さんが苦痛に感じている症状を和らげることです。痛み、だるさ、吐き気、息苦しさなどの体の症状、不眠、抑うつなどの心の症状などへの対応です。次に病状や今後の治療の目標などの理解を深めることのお手伝いです。これは患者さんと主治医の間をつなぎ納得のいく療養生活となるよう支援するものです。そしてもう一つは患者さんの療養の場を決め、その準備をすることのお手伝いです。病気の時期によって変化するものですが、患者さんご家族がどこでの療養を希望されるかをお聞きし、どこでの療養が適切かを共に考えていくものです。できれば慣れ親しんだ自宅で過ごしたいがそれが可能であるかどうか不安に感じるという方のご相談にもなっています。もちろんこれ以外にもいろいろなサポートを行っています。

【緩和ケアチームへのご相談をお考えの時】

主治医や担当の病棟もしくは外来看護師にそのご希望につきご相談ください。

また南側 4 階にあります「がん診療部」でも随時ご対応いたします。

【最後に】

当院においてはとれまでも緩和ケアを積極的に行ってまいりましたが、さらに充実を図るため本年 4 月に緩和ケア内科を設置し、緩和ケアを専門とする医師が着任致しました。

当院緩和ケアチームは、がん診療のために当院入院中もしくは通院中の患者さんとそのご家族が、最善の診療を受けていただけるよう、できる限りのお手伝いをするをお約束します。

～心や体が少しでもつらさを感じたら「緩和ケア」にご相談ください～

緩和ケア内科 主任部長 澤田 憲朗

No.77 2013.7.1 発行 編集：教育・広報活動委員会